

Euro-Asia Summer School 成果報告書

韓国とベルギーで過ごした2週間は、ソウル大学、KDI スクール、一橋大学、KU ルーバン大学などの教授陣による講義と、フィールドトリップを通して、多くのことを経験し学ぶことができた。また、同じ関心を持っている世界中からの参加者と交流を深め、授業中はもちろんのこと、教室外でもさまざまな話題について話し合うことで知的な刺激を受けた。本報告書では、韓国で過ごした1週間とベルギーで過ごした1週間とに分け、印象に残った講義や参加者との交流について述べたいと思う。

1. アジアウィーク

2017年8月21日から25日は、ソウル大学とKDI スクールで学んだ。私にとってソウル大学で最も興味深かった講義は、「EU と東アジア」であった。私はこの講演をする前に、EU と日本の関係よりも、EU と韓国の関係が進んでおり深いことを知らなかったため、経済的な協力などの連携が積極的に行われていることに非常に驚いた。EU は、韓国をアジアの重要な戦略パートナーとみなしていることを知った。

KDI スクールでは、教授たちによる開発に関する講義が行われた。私は開発に興味があるので、KDI の講義は個人的にとっても魅力的であった。ある講義は、マラウイでの教授自身の専門的な経験に基づき、MDGs、SDGs、そして援助についての説明が行われた。彼は、支援についての議論を代表する有名な2冊の本と、援助の有効性についての批判的な見方を紹介した。また、蚊帳の無料提供と費用分担の有効性の比較であるマラリア予防ネットプロビジョニングプログラムの事例を紹介し、ケーススタディを通して蚊帳の無料提供はコスト分担よりも効率的であることを明らかにした。日本のODA額は世界的にみて規模が大きく、また韓国も近年援助国としての影響力を強めているので、ただ援助するだけでなくその援助がいかにか効果的に行われているかというインパクト評価の視点は欠かせないものであり、その重要性と手法について学ぶことができた。

また、経済発展のための韓国のガバナンス改革についての講義や、1960年代からの韓国の発展の経験についての講義も行われた。これらの講義から、私は他の国の歴史や経験から学ぶことの重要性を学んだ。シンガポールの経済的発展の講義の中でもそれは強く感じた。教授はシンガポールがどのように発展したかについて、シンガポールの戦略の1つは、「シンガポールが遭遇する問題は、必ず誰かがどこかですでに解決したものだ。このソリ

ューションをコピーしてシンガポールに導入しよう」というものであったということを紹介した。

韓国で過ごしたアジアウィークでは、EU とアジアが多くの世界的な問題意識を共有していることを強く認識させられた。特に日本と韓国の間では、社会システムが似ているため、経済危機、政府の透明性、援助の有効性などの共通の問題に直面していることが明らかであった。知識を共有し、互いに学び合うことが両国の問題解決において非常に有益な策のひとつではないかと感じた。

2. ヨーロッパウィーク

8月27日から9月1日まで、KU ルーバンで学んだ1週間では、EUに関する様々な講義を受け、EUの役割とEU外の国々との関係を概観した。特に印象的だったのは、ある授業の冒頭に、ユーロ、統合、人権といった、EUをイメージしたときに思い浮かぶ3つのキーワードを参加者全員が答えるというものである。この質問と回答から、教授はこのプログラムの参加者のほとんど全員がEUに対してポジティブな印象を持っていることを指摘した。そのような指摘をした上で、EUとの関係があまり良好でない国家がEUに対しどのような関係を築いているのか、どのような問題を抱えているのかという内容の講義が行われ、新しい視点を学ぶことができた。

ベルギー国内のフィールドトリップも非常に面白かった。私たちは第一次世界大戦の主要戦場と兵士の墓地を訪れた。ガイドによる第1次世界大戦のベルギー内にある連合軍兵士の墓地とドイツ軍の墓地との間にはどのような違いがあるのかという説明や、戦争博物館の見学を通して、当時の戦況がどのようなものであったかを垣間見ることができた。ガイドが話してくれた1914年のクリスマス休戦と呼ばれるフランス、ドイツ、英国の兵士たちが一時的に休戦し、クリスマスを一緒に祝ったという話がとても印象に残っている。

3. 参加者との交流

このプログラムで、私に最も影響を与えたのは他の学生との会話である。私たちは、自分の文化や研究、人生、将来のキャリアについて多くの話を共有した。昼食、夕食、またバスや飛行機での移動時間など多くの時間を共に過ごす中で、各国の政治的、民族的問題の非常に敏感なテーマについても議論した。

また、彼らの授業への参加度の高さにも感銘を受けた。彼らの英語能力は非常に高く、自らの意見や疑問を授業ではっきりと教授にぶつけている姿は、自らの日々の授業への態度

の反省につながった。

私はさらに、重要なことは自分の意見や考えを表現することだということを学んだ。KDI スクールの教授は、「世界中で最も話されている言語は英語、中国語、スペイン語ではない、それはブローケンイングリッシュである」と我々を励ましてくれた。このプログラムのほとんどすべての参加者にとって、英語は母国語ではなかったが、彼らが躊躇せずにプレゼンテーションを行う姿は英語も学ぶ意欲を非常に高めるきっかけとなった。

私はソウル大学、KDI スクール、KU ルーベン、そしてこの夏の学校を準備し指導してくださった教授とスタッフの暖かい歓迎に深く感謝している。知的な参加者とともに EU とアジアに関する歴史、経済、政治を学ぶ 2 週間を過ごせたことは、私にとって素晴らしい機会であったことを強調したい。